

第3回きれいな海辺アクトフォーラム報告

研究第一部 次 長 勢田 昌功
研究第二部 主任研究員 田村 英記



1. はじめに

海岸に漂着する海外由来のものも含むゴミは、美しい海の景観や漁業への悪影響に止まらず、海洋環境そのものに対しても深刻な影響を与えはじめてい



写真-1 海岸漂着ゴミ

る。まず、写真-1をご覧頂きたい。これは、長崎県対馬市の海水浴場の様子である。さらに、衝撃的なのが、写真-2である。漂着ゴミが長年堆積した結

果である。この上を歩くと足下がフカフカとしており、異様な感じがした。海岸漂着ゴミ問題の終着点がこの状況であると考えざるを得なかつた。対馬市は、この対策に様々な施策や工夫を官民一体の中で鋭意取り組まれているが、追いつかない状況である。このような状況の海岸が、日本海を中心



写真-2 ゴミの堆積

に分布拡大している。この問題は、発生抑制から回収、処分までの一体的な対策が必要であり、行政、民間団体、研究者等の連携した取り組みが求められている。このため、それぞれの関係者による意見交換の場として、「きれいな海辺アクトフォーラム」を民間団体であるJ E A N / クリーンアップ全国事務局（代表：小島あずさ氏）と国土交通省が主催となり平成16年から開催された。今回、第3回目が行われたものである。

2. 第3回きれいな海辺アクトフォーラムについて

第1, 2回目では、活動実践者の情報交流がなされ、ゴミ問題の情報交換の場として、関係する多くの機関が参画する常設の「プラットフォーム」を構築することを確認した。第3回きれいな海辺アクトフォーラムの概要は、次のとおりである。

日時：平成18年2月17日10時～19時

主催：国土交通省、J E A N / クリーンアップ全国事務局

内容：講演 韓国海洋水産開発院 ナム・ジョンホ氏

(社)韓国海洋救助団 ホン・ソヌク氏

ワークショップ

今回、韓国の事例を参考にプラットフォームの役割



写真-3 会場の様子

とあり方について、意見交換した。官の立場として、韓国海洋水産開発院のナム・ジョンホ氏は、日本の活動事例を評価した上で、地域単位で情報を共有化する

プラットフォームの有効性を述べた。最後に国境を越えた活動の重要性を訴えた。また、民の立場から韓国海洋救助団のホン・ソヌク氏は、民から政府へ様々な政策提案を



写真-4 ナム・ジョンホ氏(右側)

行い、パートナーシ



写真-5 ホン・ソヌク氏

ップを構築することの重要性を述べ、各々の役割を忠実に担っていく事を強調した。長い時間であったが、74名ものの参加者は、最後まで意見交換を真剣に行っていた。

3. おわりに

対馬市職員である阿比留氏に改めて、この問題に取り組む必要性を聞いたところ、「対馬の観光資源としても大切だが、何よりも美しい海を子供たちに残してあげたいから。」と、真剣に語っていたことが印象的だった。

※写真-3, 4, 5はJ E A N / クリーンアップ全国事務局より提供。